

ドラフト

2

情報共有 非管理メモ

(5枚)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 25 日 (水) 10:30～:11:30  
 場所：東京電力本館 3 階大会議室  
 先方：記者約 40 名 (カメラ 4 台)  
 当方：原子力・立地本部 [REDACTED]  
 原子力設備管理部 [REDACTED]  
 広報部 [REDACTED]

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (5月25日午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (5月25日6:00現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果

質疑：

- Q. 一部報道で1号機の海水注入の開始前に東京電力から保安院へ連絡をしたとのことだが事実関係は。
- A. 実際にどのようにして当社から保安院に連絡したかは、引き続き調査している。また、社長が確認・了解した時間が一部わかってきており、準備の指示に関しては、3月12日12時頃、実施の指示については12日14時50分頃、確認・了解している。
- Q. 保安院へ何時にどのような方法で連絡したのか。
- A. 3月12日19時4分に海水注入を実施することに関しては、15時20分にFAXしている。実際に海水注入を開始したということは口頭にて保安院へ連絡している。
- Q. 3月12日15時20分のFAXはどのような内容か。
- A. 原本が残っていると思うので確認させていただく。
- Q. 海水注入を実施する前の連絡はどのような法律に基づくものか。
- A. 原子力災害対策特別措置法15条に基づくものである。
- Q. 海水注入を確認した時の社長の場所と官邸に伝えられなかった理由は。
- A. 社長が確認した場所は確認させていただく。海水注入の準備や実施の確認・

了承は社内の情報連絡であり、官邸に伝えられていないかもしれない。

Q. 2号機・3号機の溜まり水の移送は電源工事終了後、再開するのか。

A. 2号機については電源工事終了後、移送を再開する予定。3号機については工事終了後もしばらく中断する予定。雑固体減容処理建屋の受入れ可能量を確認・評価するとともに、保安院と今後の移送の安全性について確認していく。

Q. 1号機の炉心状態の解析条件として格納容器に直径3cmの穴があると設定しているのはあくまでも仮定の条件ということか。

A. あくまで解析上の仮定であり、格納容器の圧力値にある程度あわせるための仮定なので、実際に3cmの漏えいがあったということを仮定したのではない。

Q. 炉心状態の解析条件はどれくらいの精度があるのか。

A. 今回の解析条件の精度がどれくらい正確なのかは分からない。

Q. 今後、詳細な解析条件を詰めていくということか。

A. その通りである。高圧炉心注水系の弁などが開閉状態にあるかなど不明であるため、弁の接点ごとに通電状態を一つ一つ確認していく。

Q. 津波前に3号機の高圧炉心注水系の配管が破断していた可能性はあるのか。

A. 津波前に配管の破断などはないと考えている。

Q. IAEAは炉内の状態が世界中の関心事であると言っている、今回の調査において、さらに踏み込んだ炉内の損傷結果が出てくる可能性はあるのか。

A. プラントパラメーターの解析結果については既に渡しており、改めて、私どもからそれらを丁寧に説明することはあるかと思う。

Q. 今回のIAEAの調査において、R/B内に入って炉内の損傷具合を確認しないのか。

A. 予定していない。

Q. 6/20の閣僚級会合までに炉内の詳細な損傷具合は確認できないのではないのか。

A. 6/20までに追加で確認されたことは政府を通じて伝えることになると思う。

4

- Q. 保安院への海水注入のFAXはどこからどこへ送ったのか。また、東電としてはFAXを持って海水注入は了承されたという認識だったのか。
- A. 原災法に基づくFAXなので、発信元は発電所、発信先は保安院、地元自治体に送られている。了承が得られたか否かは確認できていない。
- Q. 保安院へのFAX送信後、水素爆発が起きているが、爆発による連絡への影響はなかったのか。
- A. どのような影響があったかは分からないが、水素爆発前の15:20にFAXを送信しているので、届いてはいると思う。
- Q. 当時、電話はつながらなかったのではないか。
- A. 電話のつながりが悪かったのは確かだが、実際に電話確認ができたか否かは確認させていただく。
- Q. 3号機高圧炉心注水系の破断原因は地震ではないとのことだが、津波が原因であればどういうメカニズムで壊れたと言うことか。
- A. 実際の配管の状況や、地震の影響なのか津波の影響かも含めてメカニズムは現状では分からない。
- Q. 高圧炉心注水系配管は建屋内にあり、津波の影響とは考えにくいのではないか。
- A. 津波の影響がどれだけあったか分からないが、現在、調査しているところ。
- Q. 今朝5時頃に浜通りで震度5弱の地震があったが影響はなかったのか。
- A. 特に影響はない。
- Q. 余震があった時、どういう対策をしているのか。
- A. 電源のバックアップ等の工事を実施しているところ。また、作業安全の面については、落下物によるリスク等も考えられるので注意換気を図っている。
- Q. 広野火力の復旧状況は。
- A. 相応の被害もあり、復旧がいつかは申し上げられないが、夏に向けて復旧に全力で取り組んでいるところ。
- Q. 3号機の高圧炉心注水系の破断について、地震後に顕著な問題がなかった

- とのことだが、逆にリークがないと思われるようなデータはあるのか。
- A. 放射線量の上昇等などの、有意な放射性物質の漏えい等のデータは確認されていない。
- Q. 仮に高圧炉心注水系の配管に破断があった場合は放射性物質が検出されるということか。
- A. 大小はあるが検出されると考えている。
- Q. スクラム時の核分裂生成物の量は。
- A. 現在まとめているところ。概算としては燃料集合体1体あたりウラン 170キログラム程度の内、核燃料生成物のウラン 235 は1号機で 3.6%、2・3号機 3.8%。3号機はMOX燃料が 1.2%あり、その内、核分裂生成物のプルトニウムが 2.6%。  
上記燃料集合体が1号機は 400 体、2・3号機は 548 体。
- Q. 炉心状態について水位維持ケースと水位低下ケースの2パターンがあるが、最終的にどのケースになるかはいつ頃分かるのか。
- A. 現時点ではわからない。
- Q. 5月15日に公表された1号機の原子炉の状況について、その後、評価は進んでいるのか。
- A. 徐々に反映して来ているところ。確認できた状態で昨日公表させていただいた。
- Q. 炉心溶融しているという判断は誰が決定したのか。
- A. 1～3号機の炉心状態について社として報告したもの。
- Q. 10,000m<sup>3</sup>、4,000m<sup>3</sup> という容量は集中廃棄物処理施設の貯蔵容量に対してどの程度の裕度を持っているのか。
- A. 地下水より水位を上げないという方針で考えているが、具体的にどの程度になるかは今後、確認してまいりたい。
- Q. 溜まり水の移送について、3号機の移送の再開は予定しているのか。
- A. 集中廃棄物処理施設側の水位上昇率等も見ても検討してまいりたい。
- Q. 解析の設定上、3号機の高圧炉心注水配管がリークパスしているというこ

6

とについて、地震の影響があったかもしれないというのは、津波前に破損していると言うことか。

A. 様々な原因は考えられるが、少なくとも、地震前にリークを示すパラメータの兆候はない。

Q. 高圧炉心注水系のどの辺りで漏れがあったとの解析をしているのか。

A. 高圧炉心注水系の弁を開いて動作した時に原子炉圧力が下がるという傾向が見られているので、その弁より下流側に漏えいがあるのではないかとして解析している。

Q. 3号機T/Bのこれまでの移送量は

A. 本日7時で3620m<sup>3</sup>、残り380m<sup>3</sup>、直近は20m<sup>3</sup>/hで移送している。

Q. 2号機と3号機の移送を停止したことによるT/B建屋への影響はないのか。

A. 無いと考えている。

Q. 電源切り替えで2号機の移送を停止するのは何時からか。

A. 9時過ぎから着手していると思う。

Q. 3号機T/B溜まり水は移送しなくても大丈夫なのか。

A. どれくらいで水位が上昇してくるかは移送停止後の上昇率も見ないとわからないが、余裕はあると考えている。

Q. IAEAの調査は何時頃から始まるのか、また、どのようなものを求められているのか。

A. 確認させていただく。

Q. 現時点でどの程度の余震まで耐えられると計算しているのか。

A. 現時点の耐震評価結果についてはとりまとめてお知らせしたい。

Q. 準備ができ次第海水注入を実施すると清水社長が確認したのが3月12日の14:50頃というのは、東京電力として判断した時間と言うことか。

A. 社内として確認した時間である。

以上